

秋田駒ヶ岳

全国からの火山噴火対策の取り組み報告

秋田駒ヶ岳／湯沢河川国道事務所
秋田駒ヶ岳山系砂防出張所

平常時からの防災意識 向上に向けた取り組み

※秋田駒ヶ岳は、約10万年前頃から火山活動を開始し、有史以降では1890年、1932年、1970年と約40年周期で噴火が発生しており、現在、前回の噴火から51年が経過しています。(2021現在)



【近年の火山噴火と地域の意識】

最も直近の噴火は、1970(昭和45)年9月、南部カルデラ内の女岳を火口として溶岩流を吹き出す、比較的穏やかな噴火が約5ヶ月に渡って続いた。夜間に溶岩を噴き上げる様を目当てに、多くの観光客でにぎわった。

このような経験を有する当地域では、火山噴火を「警戒する」という意識が醸成されていないため、火山噴火の「脅威」を発信しても、地域の経験値から、防災意識に結び付くような理解が得られにくい。



秋田駒ヶ岳の位置



※裾野には、見物に向かう車のヘッドライトの列が見える



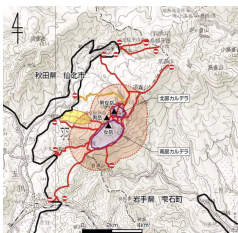
【秋田駒ヶ岳火山防災マップの発行】

2003(平成14)年に、有識者による監修の元、田沢湖町(現・仙北市)、雫石町、秋田県、岩手県、国土交通省湯沢工事事務所・岩手工事事務所(当時の名称)が「秋田駒ヶ岳火山防災マップ」を制作、田沢湖町・雫石町の全戸に配布した。

他地域の噴火経験を踏まえ、想定される噴火現象・到達区域に加え、通報先や噴火時の心得、避難場所等を掲載したことが特徴。



①地域学習・防災意識の普及、地域コミュニケーションの向上、関係機関との連携推進

児童向け	一般向け	関係機関向け		
秋田駒ヶ岳さぼろ探検隊	大学の防災授業への協力	噴火警戒レベル策定	秋田駒ヶ岳火山噴火危機管理訓練の開催	日本郵便(株)と土砂災害防止に関する協力協定を締結
●毎年開催 ●対象等 仙北市内小学校	●毎年開催 ●対象等 岩手大学	●平成21年10月より運用開始 火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)に対応した登山道規制・県道規制区間	●毎年開催 秋田県関係課、仙北市関係課、気象台、東北地方整備局等参加し、噴火時の対応について訓練を開催	●平成25年8月1日 湯沢河川国道事務所と仙北市内の5つの郵便局長との間で締結し、定期的に勉強会を開催
				
				仙北市長を含む協定関係者

②秋田駒ヶ岳火山防災ステーションを拠点とした、防災意識向上に資する知識啓発、情報の提供共有の推進

登山客への情報発信・地域学習の拠点化	噴火時の情報収集、現地対策の拠点
●監視カメラ映像の配信 ●パネル展示やビデオ上映 ●秋田駒ヶ岳噴火痕跡マップなど新たな啓発資料の作成	●一次避難場所 ●災害対策本部
監視カメラ映像の配信	平常時は学習の場として
防災情報パネルの常設	緊急時は情報収集や現地対策の拠点に
ビデオによる防災意識啓発	